



A L P S C A R E E R

＜シリーズ連載：今求められるキャリア開発 第47回＞

民間企業への派遣を 経験して

きっかけ

私は愛知県庁に入って12年目の時に、民間企業に1年間出向しました。

それまでは教育や福祉分野を主に担当してきましたが、県職員としてキャリアを重ねる中で「役所の常識は社会の非常識」なんて言われることもあり、一人の社会人として自分を見つめた際に漠然とした不安がありました。

そんな中、県庁には採用8〜12年目程度の職員を民間企業に派遣する人事制度があることを知りました。それまで仕事上であまり接点のなかった民間企業に籍を置くことで、役所では経験できない民間の感覚やセンスを学べるチャンスだと思ったため、庁内公募に手を挙げました。

会社の概要

私が出向させていただいたのはシンク

クである三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋本部です。所属していた政策研究事業本部は、主な顧客が東海北陸エリアの行政機関であり、国や自治体等が発注する調査やコンサルティング業務を多く手掛けています。また親会社である三菱東京UFJ銀行をはじめ系列のグループ企業と連携して、同エリアにおける民間主導の大規模プロジェクトなどにも取り組んでいます。

民間企業の立場になって気付いたこと

会社では研究員の肩書を得て、出向した当初の4〜5月頃は営業や企画競争入札への参加などの業務を行いました。その際、役所や民間企業の担当者とのやり取りが多かったのですが、こちらの話を最後まで聞いてもらえなかったり、ヒアリングの依頼や面会のアポイントを取るにも苦労することがありました。



志治 大輔

愛知県産業労働部観光コンベンション課
※2015年4月より振興部に観光局が新設

【しじ だいすけ】1979年愛知県一宮市生まれ。2002年愛知県庁入庁。総務部、健康福祉部、教育委員会の後、民間企業派遣を経て現職。

多くの刺激を受けた

一企業側としての立場で初めて仕事をしてみても、これまで県職員として意識せずに行っていたことが多くあることに気付かされました。

民間企業の中に入って仕事をする中で、非常に多くの刺激を受けました。この会社では成果主義が徹底されており、各研究員は自ら営業し、企画書を書いて仕事を取ってくるスタイルであるため、一人ひとりの仕事に対するモチベーションが非常に高いと感じました。

職務環境についても、日中は顧客のところやヒアリング調査先などに出張する機会が多いため、持ち出し用パソコンや携帯電話が全員に支給され、顧客や会社との連絡調整に円滑に取り組める環境となっています。

また裁量労働制がとられており、仕事の状況に応じて自宅での業務も可能なため、



時期によっては早めに帰宅し、テレワークとして自宅で業務を行うなど、仕事と家事・育児の両立に向けて柔軟に取り組むことも可能です。

他にも、会社の拠点は名古屋だけでなく、東京と大阪にもオフィスがありますが、いずれもテレビ会議設備が完備された会議室が多数あり、各拠点間の情報共有や連携を促す環境が用意されています。

一方で、コンプライアンスは徹底されています。例えばパソコンの情報セキュリティや著作権侵害を未然に防ぐため、日常業務の中にそれらをチェックするシステムが

組み込まれています。そうしたトラブルは会社の信頼低下や入札参加資格の停止につながりかねないため、一つのトラブルが個人にとどまらず、会社の存続に直結するという意識が社員全体に共有されていると感じました。

民間企業での経験で学んだこと

民間企業に身を置くことで「経済を肌で感じる」ことができました。会社では仕事の受注具合や発注元の発注単価などから、その時々々の経済・景気の動向を肌感覚として実感しました。自治体側でも産業振興部局を中心に、地域経済の動向をウォッチしていますが、当事者の立場で感じる貴重な機会でした。

また、会社の他の研究員との普段の会話の中でも、売上や決算に関する言葉に接する機会があり、社会人として最低限の会計の知識は必要だと痛感しました。この点、行政においても、いくつかの自治体では複式会計の概念を導入した新しい公会計制度が始まっており、その必要性にいち早く直面する機会となりました。

「海外への意識」も大きく変わりました。それまでは、県庁における海外の事柄は国際交流など一部の部署に限った話だと思っていました。それが、会社での業務を通じて、産業振興や環境エネルギー、観光・コンベンションなど多くの仕事で海外の動向を注視しなければならないことを認識しました。

また、多くの自治体で海外市場や国際機関を対象とした主要プロジェクトが始まっていることに衝撃を受けました。

私自身、それまでの県庁での所属では英語とは無縁でしたが、こうした状況に直面し、英語の文献や海外HP、国際電話の対応などをがき苦しみながら経験する機会となりました。

この点、県庁に戻った現在の所属でも、業務で英語に触れる機会があるため、引き続き英語力向上に対するモチベーションを保つことができています。人間、必要に迫られると嫌でも勉強するものだし、それなりに慣れていくものですね(笑)。

行政が見習うべきと思ったこと

会社での業務を通じてたくさん刺激を受ける一方で、公務員として痛感したこともありました。

会社の出張で、役所だけでなく大小問わず民間企業を訪問しましたが、一部の役所と多くの民間企業を比べると、来訪者に対する対応に差があることに気付きました。民間企業では応接スペースが完備されていることが多い一方で、一部の役所では執務室の一角のオープンスペースしかないところがありました。また職員の方の来訪者に対する接し方も、民間企業の方は顧客に対する丁寧な対応・振る舞いを心がけていると感じることがありました。

許認可などの業務を有する役所と民間企



業とは仕事内容が異なるため、一概には比較できないと思います。ただ、行政は権限を有するなど社会的に影響力があるため、来庁者に対応する職員のしぐさや振る舞いをよく見ているし、印象に残ります。

役所は「サービス業」と言われたりしますが、こうした点は自分自身これまであまり意識してこなかった点であり、一人の社会人として普段から心がけていかなければと改めて感じました。

民間人で尊敬できる人に出会う

会社に出向していた期間は1年間でした

が、その間に研究員の方々をはじめ、グループ企業や様々な顧客など多くの人的ネットワークを築くことができました。新聞やテレビへ頻繁に出演するエコノミストの方々や、国や自治体の有識者会議で座長を務めるクラスの方々など、県庁での自分の立場では話すらできないような人たちと一緒に仕事をさせていただきました。

また、一緒に仕事をする中で、「この人はすごい」「こういう人になりたい」と思える人に出会うこともありました。行政・民間の立場に関係なく一人の社会人としてすごいと感じましたし、そういう人は顧客である役所をはじめ、他の様々な業界関係者からも一目置かれていた存在でした。

自分自身も役所の中だけでなく、民間企業をはじめ、この地域の様々な立場の方から信頼される職員になっていきたいと思えます。

民間企業から役所に入るケースも

今回の私のケースは、役所から民間企業に派遣された形ですが、最近では民間企業出身者が行政の主要なポストにつくケースも増えてきています。

私の派遣先でも、前述のように公共政策を扱う業種であるため、既に中央官庁に出向している事例があり、また自治体に対しても部分的に同様のことが行われつつあります。

愛知県庁でも、現在の副知事には民間企

業出身の方がおりますし、また政策の総合調整を担う部署にも公募により選ばれた民間企業出身の方がおります（この方は、たまたま私の派遣先の企業出身であったため、私が県庁に戻ってから公私にわたってお世話になっています）。いわゆる「官民の人事交流」が始まっていることを身近で感じています。

今後、行政の課題が複雑化・多様化する中、こうしたケースは増えていくものと思われ、官民の人事交流を通じて、組織が活性化していけばいいと思います。

今後のキャリア形成に向けて

愛知県・名古屋市では、2027年のリニア開業に向けて大きなプロジェクトが目白押しです。そのため、今後は行政だけでなく、官民が一体となって課題に取り組んでいく必要があると感じています。

そうした中、この地域全体が一つにまとまって進んでいくために、自身のキャリアアビジョンとして、今回の民間企業に出向した経験や人脈を活かして、多くのステークホルダーを総合調整していける役割を担っていききたいと思っています。

自分自身、20年後に振り返った時に、「民間企業に出向した1年間で自分のターニングポイントになった」と思えるよう、今回の貴重な経験を活かして、今後のキャリアを積み重ねていきたいと思えます。